

京都帝國大學法學大科大學

經濟論叢

第六卷 第四號

大正七年四月一日發行

論說

「座」ノ研究(再ビ).....

農會瑣言.....

京都ニ於ケル舊時ノ搥屋仲間.....

營業稅ノ課稅標準(三卷).....

Unto this Lastヲ讀ム(二卷).....

職工組合論(二).....

我國ニ於ケル營利心ノ起源及發達(三).....

時事問題

米國禁輸問題ノ解剖.....

勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ.....

雜錄

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(一).....

續獨逸經濟學界近況(二).....

物價卜割引歩合トノ平行.....

米國ノ戰時海運政策(三卷).....

米國ノ戰時租稅法(三).....

帝國統一後ノ獨逸ノ植民的活動(上).....

文學博士

法學博士

法學士

法學博士

法學博士

法學士

文學士

法學博士

法學博士

法學博士

文學士

法學士

文學士

法學士

在米

文學士

文學士

三浦周行

財部靜治

本庄榮治郎

神戶正雄

河上肇

河田嗣郎

銅直勇

神戶正雄

戸田海市

戸田海市

櫛田民藏

米田庄太郎

高田保馬

岸本熊太郎

阿部賢一

山本美越乃

經濟論叢

第六卷

第四號

(通卷第三十四號)

大正七年四月發行

論說

「座」ノ研究(再ビ)

三浦周行

商工業者ノ組合タル座ハ其由來頗ル久シク、中世ニ至リテ複雑ナル社會事情ノコレニ纏綿シテ一層錯綜ヲ極メ、近世稍其性質ヲ變更セシモ、尙ホ一部ニハ其餘喘ヲ保チ、一般ニハ組合トシテ新生命ヲ續ケツツアリシナリ。近來座ニ關スル研究ノ漸ク盛ンナラントスルハ經濟史上喜ブベキ現象ナラズトセズ。然レドモ座ハモト民間ニ於テ不文律的ニ發達セルモノニシテ、一定ノ制度アルナク其成立ノ事情、契約ノ條件等必ズシモ同一ナラズ。故ニコレヲ研究スルニ當リテハ恰モ彼莊園ニ於ケルト均シク、一々ノ場合ヲ根本的ニ考覈シテ各種ノ異レル成立關係ヲ知ルヲ先決問題トナサザルベカラズ。從來ノ研究ガ一般ニ此過程ヲ闕却シテ結論ヲ急ギシヤノ嫌ナキニアラザル

ハ遺憾ナリト謂フベシ。

余ハ此見地ニ立ツテ先キニ新ニ發見セラレタル地方ノ座ノ記録ヲ研究シ、本誌第三、四卷ニ亘リテ其結果ヲ報告シタリシガ、今又コレト同一ノ理由ニ基キテ京都ノ座ニ關スル研究ヲ試ミ、聊カ本問題ノ闡明ニ資セントス。

京都ニ於ケル市廛ノ商人ガ本屬以外ノ諸司諸家ニ仕へ、其威ヲ假リテ市司ノ命ニ遵ハザリシ爲メ、京職ノ申請ニ依リテ禁令ヲ發セラレシハ既ニ平安朝時代ニ見ユ。コレ猶ホ莊園ノ場合ニ於テ其所有者タル地主ノ、權門勢家タル本所ニ於ケル從屬關係ニ異ナラズ。爾來京都ノ商工業者ノ座ハ(地方モコレニ倣ヘリトハイヘ)大抵朝廷、社寺、貴族等ヲ其本所トシテ營業上各種ノ利益ヲ圖ルニ一致セリ。(國民經濟雜誌第二十三卷第一號掲載拙稿『座』ノ起源ト其語原參照)余ガコレヨリ說カントスル座ノ如キモ亦然リシナリ。

四府駕輿丁座

中古以來左右近衛府、左右兵衛府、及ビ左右衛門府ヲ六衛府ト稱シテ、常ニ宮城ノ内外ヲ警衛シ、行幸ノ時供奉セル武官アリ、ココニ四府トイフハ其中ナル左右近衛(略シテ左近衛、右近衛トイフ)ト左右兵衛府トナリ。天皇ノ行幸ニ當リテ風輦ヲ昇クベキ駕輿丁カミヤウヂノ此四府ニ屬スルモノ即

チ四府駕輿丁ニシテ、其組合ヲ通ジテハ四府駕輿丁座トイヒ、分レテハ左近座、右近座、左兵衛座、右兵衛座トイヘリ。而シテ其中更ニ數座ニ分ルルモアリ、左近府座ニ於ケル猪熊座、朱雀座、嵯峨座ハ言フ迄モナク座人即チ組合員ノ所在地ニ依ル組合ナリ。慶長十八年ニ於ケル駕輿丁左近府内猪熊座中ガ千本組、西陣組、小川組、中筋組、本立賣、聚樂組、下京組（以上京都ノ組町ナリ）等ニアルモノヲ合セテ二十五人アリタルガ如キ其一例トシテ見ルベシ。

是等ノ駕輿丁ハ各四府中ノ一ニ屬シテ特殊ノ任務ヲ執レルモ、太政官ニ於ケル外記、史ノ分轄スルトコロニアリシナリ。外記ハ少納言局ニ隸シ、清原（舟橋）中原（押小路）ノ二氏其職ヲ世々ニシテ局務トイヒ、史ハ辨官局ニ隸シ、小槻氏（王生）又コレヲ世々ニシテ官務トイヘリ。駕輿丁ノ前者ニ屬スルヲ外記方（ザキガタ）トイヒ、後者ニ屬スルヲ官方（クワンガタ）トイヘリ。外記、史ハ共ニ詔勅ヲ始メ太政官ニ於ケル文書ノ起草、先例ノ調査其他朝廷ノ儀式ヲ管掌スル職ナレバ、其駕輿丁ヲ管轄スルニ至レル徑路モ敢テ知り難キニアラズ。而シテ余ガコレヨリ試ミントスル駕輿丁座ノ研究ハ専ラ王生文書ニ據ルモノナレバ主トシテ所謂官方ニ屬スルモノト知ルベシ。

余ハ先ヅ本研究ノ資料ニツイテ其價値的判斷ヲ試ミザルベカラズ。此資料ハ古クハ鎌倉時代ヨリ江戸時代ニ及ベルモノナルガ、其王生ノ家ニ藏シタルモノナレバトア悉ク信ヲ取り難キモノアリ

リ、ソハ座ノ所有ニ係ル文書ガ何レモ後ニ至リ座ノ提示ヲ待ツテ官務ノ謄寫シ置ケルモノナルコト、例セバ文明三年猪熊座ニ下サレシ繪旨案以下ノ古文書ノ端書ニ

天正十五正廿八到來

座中持來、仍寫置者也

古往猪熊座繪旨案

ト記セルガ如キモノナレバナリ。是等ノ中ニハ係争問題ニ關係セル重要ノ文書モアレド、コレニ對シテハ單ニ其文章ヲ見ルノ外、紙質、字體等ニツイテノ古文書學的批判ヲ加フルコト能ハズ。而カモ尙ホ其後世ノ僞作ニ係レリト思ハルルモノノ存スルハ下ニ説クガ如シ。加之座ガ其古來享有セル特權ノ承認ヲ求ムル場合ニ、コレニ關スル支證ノ紛失ヲ届出デシモノノ如キモ其實紛失セルニアラズシテ初メヨリコレナキニアラザルカラ疑ハシムルモノアリ。故ニ是等資料ノ間ニハ正確ニシテ疑ナキモノアルベキト共ニ、又僞作假託ニ係ルモノモ絶エテコレナキヲ保セズ、唯是等ノ資料ヲ通覽シ、コレヲ周圍ノ事情ニ考ヘテ、其戰國時代以降ノモノ大體ニ於テ信憑シテ可ナルヲ覺ユルノミ。(戰國時代ニ於テ其以前ニ關スル文書ヲ作爲スルコトハ免レザリシニモセヨ)コレ豫メ讀者ノ諒察ヲ請ハザルベカラザルナリ。

四府駕輿丁座ノ起源ハ詳ラカナラズ、天文十年九月二十日ノ駕輿丁初答狀ニ抑數百年之座中の

法度云々ノ文アリテ、既ニ數百年前ヨリ座トシテ繼續シ來レルガ如キモ、輕々シク信ズベカラズ。座ノ傳フル古文書ニシテ最モ古キハ次ノ如キ正應五年十一月二十六日ノ繪旨ナリ、

四府駕輿了申、諸商賣并諸公事役、任先例被免除所也、同御服賣買就非分之儀有之、重而勅命之上者、彌不可有相違可致之由天氣如件、

正應五年

十一月廿六日

左 中 將 判

四位 史 殿

正應五年ハ伏見天皇ノ御宇ニシテ鎌倉時代ノ末期ニ當リ、今ヲ去ルコト約六百二十六年ナリ。此文書ノ中、任先例云々トアレバ、四府駕輿了座ハモトヨリ是時ニ始レルニハアラズ、然レドモ此文書ハ文章頗ル拙劣ニシテ、且ツ其文體モ樣式ニ違フトコロアリ、到底當時ノ繪旨ト認ムベカラズ。コレニ次ギテハ北朝後圓融天皇應安七年七月二十日ノ繪旨アリ、コハ別ニ疑ハシキ點モナキニ似タリ。

思フニ因襲ニ重キヲ置カルル朝廷ニアリテハ鳳輩ヲ昇グベキ駕輿了ガ或種ノ人物ニ限ラレテコレヲ世襲スルコトナリシモ、可ナリ古キ時代ニアリタルナルベシ。而シテソガ四府駕輿了座ナル特殊ノ組合ヲ組成スルニ至リシハ少クトモ南北朝時代ニ遡ルコトヲ得ベキガ如シ。

四府駕輿丁ハ常ニ禁中御輿宿ノ御番即チ勤務ヲナシ行幸、讓位、即位、節會等ノ日ニハ鳳輦ヲ奉昇スルモノナレバ禁裏駕輿丁ト稱セリ。應安七年七月二十日ノ繪旨ニ據レバ、駕輿丁ハ陣座ノ疊ヲ上納スベキ義務ヲ負ヘリト見ユルモ、コハ後世ニ見ザルトコロナリ。是等ノ義務ハ御番役又ハ公役トイヒ、駕輿丁タルモノコレヲ勤仕シ他人ヲ以テコレニ代フベカラズ。若シ不都合ナル行爲アリタル時ハ座ノ制裁トシテ座人ヲ放タルベシ。然ルニ車駕ノ出御ガ年中數フルニ足ラザル程ナリシ當時ニアリテ、コレガ爲メニ多數ノ駕輿丁ヲ常備スルガ如キハ無用ノ沙汰ナリト謂フベク、皇室經濟ノ窮乏ヲ告ゲシ時ニ於テ特ニ然リトスベシ。然ルニ事實ハコレニ反シテ寧ロ斯ル時期ニ多ク存在モシ、發生モセルハ必ズ相當ノ理由ナカルベカラズ。此問題ハ座人即チ組合員ガ京都ニ於ケル市民中ノ商工業者ナリシコトヲ知ルニ及ンデ立ドコロニ解決セラルベキナリ。彼等ハ籍ヲ駕輿丁座ニ置キテ僅少ノ勞役ニ服シナガラ、禁裏ノ名ニ於テ營業上各種ノ利益ヲ收メ、コレヲ朝恩ト稱セリ。然ルニ朝廷ハコレニ依リテ必要ナル經費ノ支出ヲ免レ、財政上多少ノ餘裕ヲ生ズベキヲ以テ、其從來存續スルモノハ勿論、新ニ申請スルモノニ向ツテモ、許可ノ方針ニ傾ケルナリ。

駕輿丁座ニ屬スル座人ハ菊屋左近、百足屋右近、雁金屋左兵衛其他千切屋、大文字屋、鷓屋等ノ屋號ヲ有スルモノ多シ。其營業ニツイテハ諸賣買、諸業ナドトイヒテ種目ヲ載セザルモアレド、古文書ニ明記セラレタルハ左ノ數者ノ外ニ出デズ。

(一) 御服方又御服商賣座

(二) 米座

(三) 銅商賣

(四) 古鐵座

(五) 引物商賣

(六) 神折敷商賣

即チ座人各種ノ營業ニツイテハソレ々々座ヲ組成シナガラ、四府駕輿丁ナル身分ヲ取得スルコトニ依リテ駕輿丁座ナル大ナル組合ニ包容セラルルモノトス。サレバ御服座、米座、古鐵座等ハ格別、駕輿丁座其者ハ商工業者ノ同業組合ナリト謂フヲ得ズ。而シテ其中米座ガ内侍所并廿一社柏神供調進料所トシテ禁裏御料所ト稱シ、四府駕輿丁ノ上座タリシハ其商品タル米ヲ以テ神供ヲ調進スルノ義務ヲ負ヘルモノニシテ、オノヅカラ他ノ座人ト異ルモノアリ。思フニ記録ノ存セザルモノニアリテモ、座及ビ座人ノ間ニハ多少ノ條件ヲ異ニスルモノナキニアラザルベシ。

駕輿丁座ハ兄部コノカキス、沙汰人及ビ座人ヲ以テ組成セラル。座人タルニハ左ノ如キ外記、史ノ辭令ヲ受ク、即チ補任狀ナリ。

久松與五郎喜次

右伴男宜爲駕輿丁左近府内猪熊座、故下之狀如件、

慶長八年二月二十日

左大史小槻宿禰判

彼等ハ概ネ世襲ナルヲ以テ是等ノ辭令ガ相續ノ開クル場合ニ發セラレコト多カルベシ。然レドモ亦新ニ入座ノ申請ヲナシテ許サレシモノナキニアラズ。小槻伊治ヨリ壬生ニ宛テシ三月三日書狀ニ銅商賣ノ入座ヲ申出デタルモノアリ、補任狀ヲ發スレバ今日來謝スベキコトヲ告ゲ、今時節事候條、先々可然事候トイヒ、猶ホ先キニ入座セルモノノ親族ノモノ入座ヲ望ムヲ附言セルモノアリ。此辭令ヲ受クルニハ其手數料トモイフベキ補任料ヲ納ムルヲ要シタリシガ、ソハ外記、史ノ收入タルベキコト言フ迄モナシ。伊治ノ書狀ニ今時節云々トイヘルモノ其收入ヲ増ス爲メ許可スベキノ意ナリト察セラル。

兄部ハ一ニ長トモイフ。^{オトナ}駕輿丁座ノ業務執行者ニシテ四府ニ各一人アリ、其職ヲ世々ニシ、新任ノ日ハ外記史ノ左ノ如キ補任狀ヲ受ク。

駕輿丁左近府兄部職事

右以蘆田與三左衛門尉清次男所補任之狀如件、

天文十一年霜月二十八日

左 少 史 (花押)

左大史小槻宿禰(花押)

コレト共ニ又届務若シクハ官務ニ隸スル諸役人ニ對シテ補任料ヲ出ダサシメラル。小槻孝亮七月九日ノ起請文ニ據レバ多クモ一貫二百文ヲ出デザル慣例ナリシトイフ。兄部ノ補任ニツイテハ又綸旨ヲモ下サレタリ。(永祿三年十月二十六日左大史小槻宿禰下知狀)兄部下ノ座人ヲ下方トモ下座トモイヘリ。猶ホ支配トイハンガ如シ。猪熊座ハ左近府ニ隸セシガ、當時ノ文書ニ左近府兄部猪熊座ト書ケルヲ見ルハ、兄部ノ管轄タルヲ示スモノナリ。サレバ兄部ハ世ヲ逐テ益尊大トナリ、座人トノ間ハ委任關係以上ニ出デシガ如シ。

沙汰人モ四府ニ各一人アリ、其任務ハ(一)毎年正月元日ヲ始メ公務ノアルベキ日ニハ禁中ニ祇候シ、(二)奉行ノ命令ヲ座中ニ傳へ、(三)座中ヨリ上申スベキコトアラバ、コレヲ奉行ニ達シ、又(四)禁中ノ御輿宿ニ出勤スルナリ。其ノ起源ハ詳ラカナラザレドモ、モト兄部若シクハ座中ノ古老ニ於テ其事務ヲ見タリシモノ、後ニ(戰國時代ナルベシ)コレガ爲メ特ニ此沙汰人ナルモノヲ置キテ兄部ノ補助者トナシシモノノ如シ。天文十年左右近府駕輿丁沙汰人ガ御輿宿ノ御番ヲ勤ムルコトニツキテ座中ト争ヲ生ジタリシ時、沙汰人ハ初ヨリ此義務ナク、又公務多忙ニテ其餘裕ナシトテコレヲ否認セルニ對シテ、座中ハ元來座人役トシテ座中古老ノモノ此御番ヲ勤メ來リシモ、數十年

來志望者ノ中ヨリ兄部ノ旨ヲ承ケテコレヲ任ジ、御番以下ノ事務ニ當ラシメ、番料トシテ一定ノ扶持ヲ給スルモノナリト辨駁シタリシガ、朝廷ハ沙汰人ノ懈怠ヲ責メテコレヲ罷メ、遂ニ兄部ヲシテ他ノ沙汰人ヲ任命セシメラレタレバ、曲ハ沙汰人ニアルベク、沙汰人ノ地位ハ兄部ニ比肩スベクモアラザリシナリ。然ルニ其世襲ノ風ヲナセルハ兄部ト同一ナリシガ如シ。

座人ガ風輦ヲ奉昇スルハ其義務タルト同時ニ權利タリシヲ以テ、故ナク座人ヲ措イテ他人ニ代ヘラレシ場合ニ座人ハ其不當ヲ訴ヘ出デタリシガ、座人ニシテ若シ此義務ヲ懈怠スルニ於テハ勅勸ヲ蒙リテ別人ニ代ヘラルルモ、モトヨリ不服ヲ唱フベキ限ニアラズ。

然ラバ座人タル商工業者ハ其所謂禁裏駕輿丁タルコトニ依リテ如何ナル營業上ノ利益ヲ得タリシヤ。コハ座ノ成立ニ取リテ重要ナル性質ヲ有スルモノナレバ、左ニ稍詳シクコレヲ考察スベシ。座ハ朝廷ニ直轄セリト雖ドモ、當時ニ於ケル政治上ノ事情ハ朝廷ノ外、幕府ノ保護ヲモ必要トセリ。故ニ座ハ其朝廷トノ從屬關係ニツキテ幕府ノ承認ヲ得、朝廷ト同一ノ保護ヲ受クルコトトシタリシナリ。サレバ余ガ次下ニ説クトコロノ座ニ對スル保護ハ多クノ場合、朝幕ニ通ジテノ事ナリト知ルベシ。

諸役免除ハ所謂朝恩ノ最タルモノナリ。座ノ古文書ニハ場合ニ依リテ諸國諸商賣役并臨時課役

ノ免除トモ書スルモアレバ、諸國諸商賣諸公事臨時課役ノ免除トモ、諸業ノ公事及諸役ノ免除トモ書シ、又諸役諸商買諸國諸關渡等ノ免除トモ書スルモアリ、江戸時代ニアリテハ座人ハ表ニ

禁裏様

諸役

御免除

ト書シ、裏ニ

元祿四年二月二日

辛未



木坂玄蕃助 印

矢部主膳正 印

土山淡路守 印

三澤壹岐守 印

高濱勘解由 印

所附側附壹軒^⑧ 名

ト書シタル如キ札ヲ受ケテ證トナセリ。(他ノ明和八年七月二十七日ノ札ノ雛形ニハ表ハ諸役御免除ト大書セラレ、裏ノ最後ノ一行ノ所附以下ガ

右近府駕輿

上立賣通堀川東ノ入堀之上町南側壹軒^⑧役西田六兵衛トナリ居ルヲ見ル)若シ座人ヲ他人ニ譲リ、及ビ家屋敷ヲ賣却セバ此札ハ返納スルヲ要セリ。恐ラクハコレ江戸時代以前ノ慣習ナラン。

所謂諸役免除トハ朝廷ハ勿論幕府、諸國ノ守護、神社、寺院等ヨリ恒例、臨時ノ租税、徭役、

其他關稅等ヲ賦課セラルルコトナキヲイフナリ。故ニ若シコレニ反シテ他ヨリ不當ノ課稅ヲ強ヒラルルニ於テハ、座ハ直ニ朝廷及ビ幕府ニ訴ヘテ其救濟ヲ求ムルコトヲ得タリ。一例ヲ舉グレバ天文十七年七月二十四日駕輿丁座中ニ賜ハリシ綸旨案ニ於テ、天台座主宮ヨリ其渡領(ワタリリヤ)(世襲財產ノ義)ト稱シ、座中ノ御服方(御服商賣座)ニ對シテ小袖役(小袖ノ販賣ニ對スル營業稅)ヲ課セラレタレバ、座ハ諸役免除ノ朝恩ヲ楯ニコレヲ拒ミ、朝廷ニ訴ヘテ綸旨ヲ申シ下シタリシナリ。又右近府座人タル引物商ニ對シテモ、小槻千恒ノ時、殿下渡領(攝關家ノ世襲財產ノ義)ト稱シテ公事錢ヲ課セラレシ爲メ大史ヨリ其免除ヲ乞ヒシコトアリ。當時納稅ヲ拒ムモノニ對シテ一時商品ヲ差押フルコトアリ、斯ル場合ニモ座ハ遲滯ナク朝廷及ビ幕府ニ向ツテ其救濟ヲ請ヒ、損害ノ賠償ヲ請求スルヲ例トシタリキ。

次ニ座ハ一般ノ座法(座ノ規定)トシテ專賣權ヲ享有シ他ノコレヲ侵害スルヲ許サズ。天文十七年八月二十二日幕府ノ米座ニ與ヘシ下知狀ニモ座法ニ任セテ下京ノ四府ノ駕輿丁ガ其營業ヲ全ウシ非分ノ振賣(フリヤリ)ヲ禁ズベキコトヲ令セリ。振賣トハ行商ノ義ナリ。若シ他ノ爲メニ其專賣權ヲ侵害セラレシ時ハ座トシテコレニ抗議シ、相當ノ處分ヲナスコトヲ得タリ。爲座中堅申附クルコトヲ許サレタルハコレガ爲メナリ。天正九年八月五日古鐵座ニ下サレシ綸旨ニ拔荷拔賣等堅知行云々トアルハ是等ノ不正ナル商人ヨリ得タル賠償ト見ルベシ。サレド若シ商人ニシテ賠償ノ求ニ應ゼ

ザレバ朝廷若シクハ幕府ニ向ツテ救濟ヲ仰グコトヲ得ベシ。永正十六年七月九日ノ幕府ノ下知狀ニ四府駕輿丁ノ訴ニ依リテ他ノ絹布ノ販賣ヲナスモノヲ禁ゼシモノアルガ如キハ其一例ナリ。

然ルニ諸役免除ハ座カ座以外ヨリ強制セラルル一切ノ課稅ヲ蠲免セラルルノ義ニシテ、座其者ニアリテハ組合事業ヲ經營スルニ當ツテ相當ノ經費ヲ要スベク、業務ノ執行者ニ對シテモ其報酬ヲ支拂ハザルベカラザレバ、座人タル組合員ハコレガ負擔ヲ避クベカラザルヤ言フ迄モアラズ。

慶長六年二月八日ノ四府駕輿丁ノ申狀ニ據レバ昔ハ彼等ニ對スル扶持トシテ洛中洛外ノ御服賣買棚(御服商賣座ニ屬スル御服店)ヨリ役錢ヲ徴シ來リシモ、其後コレヲ廢セラレ、信長ノ時ニハ米八石ヲ給セラレテ二三年繼續セシモ、今ハ四石ニモ二三石ニモ當ラザル程ナリトイヘリ。此役錢ガ專ラ御服座ニ關スルモノナルハ言フ迄モナシ。天文七年沙汰人ノ報酬ニツイテ爭ヲ生ゼシ時、座中ハ禁裏御番役錢(番料)ト稱シテ、洛中洛外ノ駕輿丁御服座ノ座人ヨリ徴セルモノハ兄部ニ於テコレヲ取扱ヒ(進退)、其中二百疋ヲ一年兩季ニ衣更コロモカ衣更役錢トモイフ)ト號シテ沙汰人ニ支給スルモノナリト主張シ、沙汰人ハ又コレヲ以テ自己ノ持分ナリト主張シタリシガ、朝廷ハ沙汰人ノ不法ノ中立ヲ斥ケテコレヲ罷メ、同十六年朝廷其罪ヲ赦シテ舊ノ如ク沙汰人ノ職ニ當ラシメタリシモ、翌年沙汰人ハ先規ナリト稱シテ幕府ニ申請シ、同年七月十日幕府ノ許可ヲ得テ此御服座ノ役錢(御服商賣ノ番料)ヲ私シタリシカバ座中ハコレヲ幕府ニ訴ヘ、同年十二月二十二日幕府ノ下知狀ニ依リテ御服座ノ役錢ハ朝恩トシテ座中ニ賜ハリ、兄部ノ進退タルベキヲ承認シ、朝廷ハコレ

ニ關シテ數通ノ繪旨、女房奉書ヲ賜ハリ沙汰人ハ先規ノ如ク兄部ヨリ任命スベキコトナレリ。洛中洛外ノ御服賣買棚ノ役錢ナルモノ是ナリ。天文七年十二月廿八日(引田カ)秀次ノ近松藤四郎ニ與ヘシ四府駕輿丁左兵衛職ノ讓狀ニ、立賣其外ニ散在セル棚ノ公事錢ヲ一所ヨリ五十文宛四季ニ徴スベク、其他ニモ公事錢アルコトヲ載セタルハ左兵衛府兄部職ノ持分ナリト知ラル。

然レドモ御服座以外ノ商工業ノ座ニシテ此四府駕輿丁座ニ屬スルモノハオノヅカラ他ノ種類ノ役錢ヲ負擔セシナルベシ。天正九年八月五日駕輿丁神田與左衛門ニ賜ハリシ繪旨ニ於テ古鐵座役棚公事ヲ知行スルヲ許サレタルガ如キ、古鐵座ニハ又其役錢及ビ其座ニ屬スル棚即チ商店ノ公事錢アリタルヲ見ルベキナリ。

前ニ引用セル慶長六年ノ申狀ニ見エタル如ク座人ノ收入ニツイテハ前後沿革アリシガ如ク、慶長十五年閏二月十五日及ビ同十八年九月二十八日ノ左近府座兄部小畑彦七ノ申狀ニ其管下タル猪熊座ハ京中諸役免除タルヲ以テ、常ニハ何等ノ負擔ナキモ、禁中ノ勤務ノ爲メ經費ヲ要スルニ當リテハ、其丹後、若狹ヨリ種々ノ商品ヲ仕入レテ京中ニ販賣スル賣上高ヨリ上米二石ヲ兄部ニ納メシメテコレニ充ツトイヘリ。

斯クテ足利氏ヨリ信長、秀吉ヲ經テ徳川氏ニ至リテモ、此朝廷トノ特殊ナル關係ニ立テル座ハ其存在ヲ認メラレ、組合員タル座人ハ駕輿丁ナル賤役ヲ執リナガラ、禁裏ノ名ニ於テ營業上各種ノ便宜ヲ享ケツツアリシナリ。